

平成22年度第1回子ども読書活動推進計画策定委員会議 議事録

日 時	平成22年6月8日（火）14：30～16：30
場 所	福岡市交通局 4階 研修室
出 席 者	別紙のとおり
議 題	(1) 子ども読書活動推進計画の改定について (2) 「子どもの読書活動に関する意識調査」について (3) 子ども読書活動推進計画の成果と課題について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1. 開会
2. 教育長あいさつ（内容は省略）
3. 委員の紹介（自己紹介）
4. 委員長・副委員長の選出
5. 議題

(1) 子ども読書活動推進計画の改定について

委員長	事務局より説明を。
事務局	(1) について 説明（内容は省略）
委員長	これらについて質問，意見はないか。
	質問・意見なし

(2) 「子どもの読書活動に関する意識調査」について

委員長	議題について，事務局から説明を。
事務局	*説明（内容は省略）
委員長	これについて質問，意見はないか。
委員	中学2年生が「読書の時間の有無」の「ある」が増えており，学校図書館の利用状況も減っているのが気になる。中学2年生ということで，このような結果になる原因が考えられるか教えてほしい。

委員	まず、部活動が挙げられる。運動系がほとんどで文化系は少ない。小学校に比べると、中学生の読む本は1冊読むのが難しい。昨年度から学校司書が30校配置になったが、その学校では、学校司書の働きかけで、図書館を利用する生徒がかなり増えた。学校司書は2年経ったら、別の学校に移るといことなので、あと何年かするとその成果がでるのではないか。朝読書が少なくなっているのは、新しい学習指導要領による授業時数の確保が強く言われているからである。週1時間増えることになると、朝読書より、授業をした方がいいという職員もいる。
委員	今の件に関しては部活動、勉強等、本当にそうではないかと思う。一緒に活動している人で、高校生するとき、先生から短い時間に読み聞かせをしてもらった楽しかったと言っていた。読書は時間を与えられたからするのではなく、楽しいと思ったら、時間を見つけてするものだと思う。そういう意味でも、中学校、高校でも先生が時間を見つけて良い本を読んであげると自主的に読書をしたと思う子が増えてくるのではないか。時間的なものと別に与えられるものがあるのではないかと思う。
委員	公共図書館についてだが、調査結果はどの学年も5年前より利用が増えていない。どちらかという少し減っている。「本の種類を増やす」「読みたい本がない」というのも衝撃的だった。保護者のアンケートを見ると、保護者も利用が少し減っていたが、「使いやすくするための方策」の中で、「その他」の項目が増えている。「その他」の中味が具体的に分れば今後に生かされると思う。

### (3) 福岡市子ども読書活動推進計画の成果と課題について

委員長	報告(1)について報告を。
関係委員 (6委員)	*説明(内容は省略)
委員長	報告について質問等あるか。
委員	<p>司書は学校をかけもちで忙しいが成果があがっている。きびしいとは思いますが、必ず予算をとって全校に配置されるように努力してほしい。司書教諭はあくまで教諭。プロは司書。司書が核となり、ボランティアが学校の中で手となり足となって活動できる。このことは策定したあと、きちんとしていただきたい。</p> <p>もう一つは、小学校に入学してきたときに、それまでの読書環境の差が大きく、読み聞かせが難しい。「幼稚園は忙しいので、読み聞かせができない。」と言われることもある。もっと地域毎に連携を取り合っていくことが大切。夏休みには学校に子どもたちがいないので、図書館の整理や環境整</p>

備をするのにいい機会である。夏休みには、子どもも一緒に参加し、活動し、子連れで楽しく活動できる。

委員 学校司書を次年度増やすということはないのか。学校司書が配置されている学校といない学校ではこのような差があり、これだけ成果が上がっているのに、どうしてか。また2年間の後、学校司書がいなくなったときにボランティアは誰を頼りにしていったらいいのか。

委員 学校司書配置要望は多い。全校配置を目指してやっていきたい。一足飛びにはいかないで、このような会でご意見をいただき、力にしながら、来年度に向けて手を打っていきたい。現状は15人を30人に増やした。新しい視点として小学校と中学校を1人の司書にもってもらおう仕組みを作って、それがどういう効果を出すのか、成果等はまだ未検証の部分はあるが、昨年度から本年度にかけて取り組んでいることをしっかり検証しながら、今後増やす方向で力になるような整理の仕方をしたい。お力添えをお願いしたい。

委員 学校司書配置、頑張っていたきたい。司書教諭の数は充実しているが、学級担任であり授業をもつての司書教諭なので、時間的に大変厳しい。時間的な措置がとられていない。学校司書と連携を取合う時間的措置をとってほしい。

委員 司書教諭も低学年担任だと多少余裕があるが、高学年担任だと連絡をとる時間もほとんどない。学校司書は年間150日で2校勤務、1日4時間勤務であり、1校に週2日勤務で司書教諭と連携をとるのが難しい。もっと時間がとればよい。学校司書が配置されている間はいいが、その後はどうなるか、配置当初からその後のことを考えている。ある小学校では、PTAの中に図書委員会がある。本の整理、環境整備、修理等は保護者をお願いしているが、この図書委員会のあるような学校はほとんどない。

委員 昨年実施した意識調査を見ると、示唆に富んだ中味が多い。保護者の読書嫌いが増えていることが気になる。子どもの読書環境づくりを考えると、保護者が読書とどう向き合っているかということが重要。我々が行った別調査でも「二極化」の傾向が見られる。メディアを過度に見ない、活用しないようにしているという家庭が多い一方、メディア漬けの家庭もある。平日でも5、6時間あるいは12時間メディアと接触しているという家庭もあり、まさに「二極化」していることが言える。この計画は子ども読書の計画ではあるが、そのあたりを全く考えないで計画が考えられるのか、大人の環境も変えていくことでのご提案があればいけないか。この状況を放置していくと、保護者がそういう子どもたちを「再生産」することになるのではないかと思う。

委員 「家読（うちどく）」という運動が少しずつ広がっている。子どもの読書推進を考えると、家庭で子どもが本を読むことが大切であることを伝え

ていく具体的な方策がないと難しいのかなと思う。「家読」のような活動を広める必要があるのかなと思う。それには、学校・幼稚園・保育園を通して行い、全体的な目標として、例えば「家読を推進する。」という計画を共通目標で立てたりできないものかと考えている。

委員長

いいアイデア等あれば、次回まであるいは、直接事務局までお願いしたい。

教育委員にも一言お願いしたい。

教育委員

教育委員会議では、ノーテレビデー等を進めているが、読書とすごく関わりがある。子どもの生活自体が忙しくなっており、テレビを消さないことには時間ができない。ノーテレビデーと「家読」を一緒に進めていくのがいいのではないかなと思う。「読みましょう。」「読みましょう。」では進まない。今後のみなさんのご健闘をお願いしたい。

## 6. その他

子ども読書フォーラムについて

事務局

\*説明（内容は省略）

## 7. 閉会

委員長

これで閉会する。

教育長

\*あいさつ（内容は省略）

終了

第1回子ども読書活動推進計画策定委員会議出席者名簿

平成22年6月8日

【子ども読書活動推進計画策定委員会委員】

委嘱区分	所 属	氏 名
学校教育関係者	九州情報大学副学長	安藤 延男
	佐賀女子短期大学准教授	白根 恵子
社会教育関係者	福岡市社会教育委員会議委員長	松尾 祐作
	中学校図書館教育委員会会長(元岡中学校校長)	花木 成慈
	司書教諭(春住小学校教諭)	池田さくも
	学校司書(高取小・高取中)	片桐由美子
	特別支援学校長(東福岡特別支援学校)	小関 正利
家庭教育関係者	福岡市PTA協議会副会長	多比良啓子
ボランティア 活動者	ブックスタートボランティア(絵本ふれあいタイム早良区代表)	田中 兆子
	学校図書館ボランティア(福岡市小学校図書館よみきかせボランティアネットワーク)	甲斐 景子
	図書館おはなしボランティア(福岡おはなしの会代表)	八尋 理恵
	地域文庫活動者(小田部文庫)	鑪 しずこ
図書館関係者	図書館司書(総合図書館読書相談員)	小久井明京美
コミュニティ	公民館長(筑紫丘公民館長・福岡市公民館長会副会長)	橋本 治美
書店組合	書店組合代表(福岡県書店商業組合理事長)	山口 尚之
子ども行政	こども未来局こども部こども発達支援課長	西野 達彦
	子育て支援部保育所指導課長	福嶋 利明
コミュニティ行政	市民コミュニティ推進部公民館支援課長	北崎 博三
教育行政	教育委員会教育支援部学校支援課長	橋爪 秀三
	指導部学校指導課長	長谷川弘明
	総合図書館図書館図書利用課長	大串 計司
	教育支援部生涯学習課長	安部 修
計		22名

【事務局等】

役 職 名	氏 名
教育委員	貝田 由紀
教育長	山田 裕嗣
教育支援部長	西山 眞弓
生涯学習課生涯学習係長	合屋 四郎
生涯学習課社会教育係長	大森 哲子
生涯学習課家庭教育支援係長	安松 広子